

令和4年度 園評価

( 評価点 4:よくあてはまる 3:ややあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:全くあてはまらない )

大垣市立南保育園

評価項目		自己評価		園関係者評価(5名)	今後の改善に向けて
		○成果 △課題	評価		
心身ともに元気な子	1	園児は、元気に挨拶をし、喜んで登園している。	○保育者が笑顔で明るい雰囲気を受け入れを心掛けたことで、安心して喜んで登園することができる子が増えた。 ○登園時には視線をしっかりと合わせて挨拶をすることを繰り返し行ったことで習慣づいた。 ○登園しぶりの園児に対して保護者との連携をとるようにした。 △延長保育児の登園の状況など、伝わらないことがあった。	4	・保育者が笑顔で園児を受け入れており、ぬくもりのある保育体制が構築されている。園児もそれを受けて挨拶を自分からできるようになってきているようだ。今後も、笑顔で挨拶をしていける園経営をしてほしい。また、引き続き園児の気持ちに気付けるよう内面理解に努めていくとよい。
	2	園児は、十分に身体を動かして遊ぶ。	○体操やリズム遊び、園外保育を多く取り入れ、身体を動かして遊ぶ機会を作った。 ○チャレンジカードを作成し、様々な遊具や用具を使った遊びに挑戦するきっかけを作ることができた。 ○一人一人のつきたい力を明確にし、発達にあった遊びを取り入れた。 △密を避けるため、園庭や遊戯室の使用時間を学年で割り振っていることで、身体を動かすことに十分な時間の確保が難しい。	3.6	・伝統あるリズム遊びや体操遊びを積極的に取り入れていることは素晴らしい。チャレンジカードでの取り組み等、工夫されていてよい。 ・園庭の大きさの影響もあるかもしれないが、戸外で十分に身体を動かす運動遊びの機会を多くしていくとよい。
	3	園児は、手洗い、手指消毒、マスク着用(3歳児以上)をこまめに行う。	○生活の一部として、手洗い、手指消毒、マスク着用が習慣づいている為、どの子も無理なく取り組むことができた。 ○保育者も一緒に行うことで、子どもたちの見本となっている。 △慣れや冬場の水の冷たさから、手洗いの仕方がおそろけになりがちなものもある。	3.2	・年齢に応じて、マスク対応ができている。 ・園だけでなく、家庭においても園児に習慣づけることを保護者に理解してもらい協力するように進めるとよい。
友達と仲良く遊ぶ子	4	園児は、友達と一緒に遊ぶことを楽しいと感じている。	○友達と手をつないだり体操したり、園児同士が関わりがもてるような遊びに取り組むことができた。 ○ごっこ遊びなどで、玩具の数や種類を遊びに合わせて調節し、友達と一緒に製作したり友達とのやりとりを楽しめるようにしたりした。 ○集団遊びを取り入れ、一人では味わえない遊びの楽しさを知らせた。 △発達の差が大きく、個々の遊びを好む子もいる。 △自分の思いをうまく伝えることが難しく、友達とトラブルになることもある。	3.6	・子どもたちと一緒に、保育者も仲間になって遊んでいる。その取り組み姿勢がよい。 ・集団生活が難しい子に対して、保育者の確保ができるとよい。個別の関わりが必要という配慮面では、個の成長を伸ばしていける環境・支援体制が整えられることを望む。
	5	園は、異年齢との関わりを大切にしている。(コロナ対策としてクラス内での関わりを大切にしている期間もある)	○異年齢での直接的な交流は難しかったが、運動会や発表会などの行事では、取り組む姿を見て上の年齢の子への憧れの気持ちを育むことができた。 ○5歳児が当番活動をしたり、掃除をしたりする姿を意識的に知らせ、お礼を伝えることで、関わりを深めた。 ○他のクラスの活動の様子を見たり、同じ場で遊んだりして、関わりをもつことができた。	2.7	・異年齢児との関わりは、園児たちの成長のためには大切なことだと思う。コロナが落ち着いてきたら触れ合う機会を増やしていくことが望ましい。
考えて取り組む子	6	園児は、保育者や友達に自分の思いを伝え、相手の話を聞くこととする。	○保育者が子どもの思いをくみ取り、気持ちを言葉にして伝えていった。 ○園児が安心して自分の思いを発信できるよう、信頼関係を築いていった。 ○自分の思いを伝えることが難しい子には、「どうしたいのか」など思いを聞き取り、丁寧な関わりを心掛けた。 ○未満児は、表情や仕草で伝えようとすることができていた。 △話を聞くことが苦手な子が多い。	3.2	・作品展等の取り組みでは、園児の思いを表現するために保育者が十分に話を聞いたり、園児が一生懸命に伝えようとしていたりするやりとりが丁寧に行われていた。その結果、満足感や達成感を得ることができた作品に仕上がったのだと思った。 ・今後も園児の目線に立て、一人一人の気持ちを理解し、園児たちの声を聞く場を設けていってほしい。
	7	園児は、自分の好きな遊びを見つけて、夢中になって遊んでいる。	○子どもたちの様子を見ながら、遊びやすい環境を整えていった。 ○クラス全体での活動、一人一人の好きな遊びの選択と、バランスよく遊びを構成しながら保育を進めていった。 ○5歳児は、遊びの中でそれぞれの役割を見つけ、友達と一緒に遊びを楽しむことができた。 △毎日同じような活動になってしまうことがあった。	3.2	・いろいろな廃材があり、材料は仕切りが工夫されて環境が整っていた。園児が自分で選んでおもちゃを作っていた。 ・園児の観察がよくできており、環境整備が十分にされているので、保護者へ積極的に発信していくとよい。
危機管理	8	園は、園児が安全で楽しく生活ができるよう、遊びや行動の安全の充実に努めている。自分の命は自分で守っている。(命を守る訓練、交通安全指導等)	○毎月、命を守る訓練や交通安全指導を行い、身を守る方法を知らせていった。 ○災害時において臨機応変に対応できるよう、様々な想定のもとで訓練を行った。訓練後は、職員間で話し合い、反省を次に活かしたり、役割を確認したりした。 ○玩具の消毒や遊具・用具の点検を行い、安心・安全に遊ぶことができるよう努めた。 ○園児の登園状況は、確実なチェック体制のもと出席の確認を行うことができた。	3.4	・廊下など、整理整頓がされており、角にも安全対策をしてあり、きめ細かな環境整備に取り組まれていると思った。 ・玩具や遊具の点検を行い、園児の怪我を防いで安心して遊ぶことができるようにしている。 ・自分の命をしっかりと守ることができる訓練を引き続き行ってほしい。
家庭や地域との連携	9	園は、保育・教育において、大切なことを家庭や地域に情報発信し、開かれた園づくりに努めている。	○5領域を意識した保育活動を、ドキュメンテーションやおたよりで発信した。写真を多く取り入れ園での様子を分かりやすく伝えた。 ○保育活動のエピソードをホワイトボードで毎日発信し、保護者も楽しみにしている。 ○毎日の送迎時や連絡帳を用いて保護者との共通理解を深めることができた。(未満児) ○園だよりを地域に発信している。 △延長保育を利用している保護者との連携がとづらい。	3.5	・日頃の出来事をホワイトボードに記載して発信したり、ドキュメンテーションで紹介したりするアイデアが素晴らしい。今後も家庭や地域との連携を充実してほしい。 ・延長保育利用者にも定期的に意見を聞く機会を設けていくとよい。 ・園だよりを地域や小学校に配布していることは、園とのつながりができていてよい。園の活動が読み取れたので今後も継続してほしい。